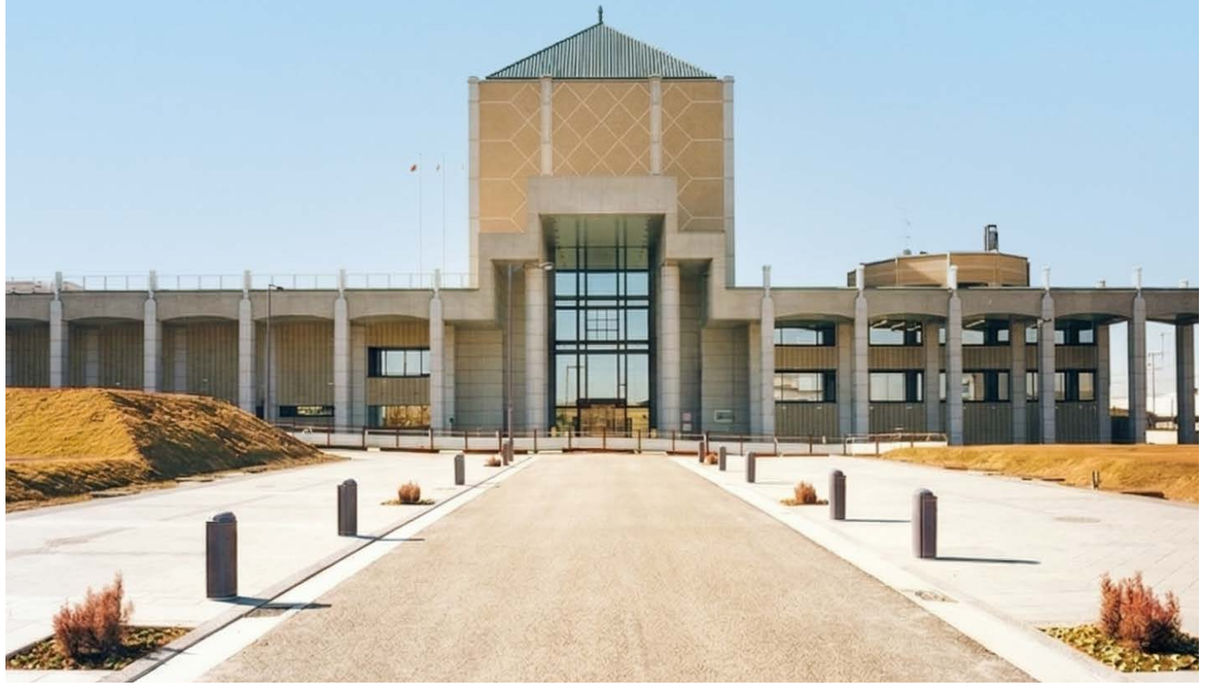
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

横浜市歴史博物館
30周年記念誌

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM



横浜市歴史博物館
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

横浜市歴史博物館
30周年記念誌
Yokohama History Museum

横浜市歴史博物館
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

Congratulatory Message

祝辞

市長挨拶

横浜市歴史博物館が開館30周年という大きな節目を迎え、これまで長年にわたり博物館を支えてこられた全ての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

本館は、平成7年の開館以来、原始の時代から開港後の近現代に至る横浜の歴史と文化を伝える拠点として、子どもから大人まで幅広い市民に親しまれてきました。地域の遺跡・資料の調査研究を土台に、ボランティアの皆様による常設展示と国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡」の一体的な解説、趣向を凝らした数々の企画展、そして近年は他施設との連携や動画などによる積極的な情報発信など、様々な創意工夫を重ねながら、横浜の「人文知」を次世代へと継承する重要な役割を果たしていただいています。

横浜市は、これからも市民の皆様が横浜の歴史と文化に身近に触れ、より一層地域への愛着を育んでいただけるよう、力を尽くしてまいります。引き続き、皆様の温かい御支援と御協力を賜りますようお願いを申し上げて、結びのことばとさせていただきます。

令和8年3月

横浜市長　山中竹春

教育長挨拶

横浜市歴史博物館が開館30周年という大きな節目を迎えられましたことに、心より敬意を表します。本館は、横浜市域の歴史を原始から近代に至るまで幅広く紹介し、市民の皆様に地域の成り立ちや文化の歩みを伝える貴重な拠点として、長年にわたり大きな役割を果たしてこられました。特に、国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡」を活用した体験型の学習や、学校教育との連携による訪問授業・展示解説などは、子どもたちの学びを深めるうえで大変意義深いものです。

教育行政の立場からも、こうした地域に根ざした学びの場があることは、子どもたちが自らの住むまちに誇りと愛着を持ち、未来を切り拓く力を育むうえで、かけがえのない存在であると感じております。

30年という年月の中で培われた知見と信頼を礎に、今後も市民に開かれた博物館として、さらなる発展を遂げられることを心より願っております。

結びに、これまで本館の運営に尽力されてきたすべての関係者の皆様に深く感謝を表するとともに、今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

令和8年3月

横浜市教育長　下田康晴

Director's Message

あいさつ

横浜市歴史博物館30周年記念誌の刊行に寄せて

横浜市歴史博物館は、原始から近現代にわたる「横浜に生きた人々の生活の歴史」をテーマに、横浜の歴史・文化資料の収集と調査研究を行い、その成果を展示・公開・普及することを目的として、1995年1月31日に開館、2025年1月31日に30周年を迎えました。

横浜は、開港以降の歴史がよく注目されますが、市域には旧石器時代以降約3万年にわたる人々の歩みの歴史文化遺産が残されています。当館は、横浜の通史を扱う博物館として、これまで歴史・考古・民俗・美術といった多様な視点から、横浜にくらしてきた人々の生活の歴史を総括的に紹介・展示してまいりました。

当館の特徴として、弥生時代を代表する環濠集落とその墓地である国史跡大塚・歳勝土遺跡の遺跡公園が隣接し、一体的に活用されていることがあります。

常設展示に加え、市民の方々の協力のもと大塚・歳勝土遺跡公園で行ってきた多様な学習活動によって、弥生時代が実感できる博物館としての取り組みを進めて参りました。

博物館は、港北ニュータウン開発の中心地区に整備され開館しました。当時は周りに建物が無く、センター北駅から見通せる状況でした。現在のにぎやかな市街に至る30年余りの間、博物館は街の発展を見守ってきました。街の発展とともに、地域には文化や芸術、学習、にぎわい創出などを担う市民や団体が誕生してきました。博物館はこの地区の中核的文化施設として、市民や地域の団体の皆様と連携しながら、活動を展開してきました。この間、指定管理者制度の導入、文化芸術基本法の成立、文化財保護法や博物館法の改正など、博物館を取り巻く環境・制度の変化にも対応してきました。本誌は、当館の30年に及ぶあゆみを改めて紹介し、皆様と共有するものです。

そしてこれからの新たな30年に向けて、これまで築いてきた市民や地域の皆様との関係をさらに深め、これまで収集・蓄積してきた資料や研究成果を活かして、博物館を次の世代につないでいくよう、努めてまいる所存であります。これからも、横浜市歴史博物館を、どうぞよろしくご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

横浜市歴史博物館館長　佐藤信

目次

祝辞　横浜市長　山中竹春 ―― 2
横浜市教育長　下田康晴

あいさつ　横浜市歴史博物館館長　佐藤信 ―― 3

第1期　1995年～2005年 横浜市歴史博物館草創期を振り返って　前沢和之 ―― 5
年度ごとの企画展、おもなできごと ―― 6-27
〈歴博コラム〉
二つの柱　岸上興一郎 ―― 28
多様な関心に向き合うということ　安藤広道 ―― 29
開館当初のミュージアムショップ ―― 29
歴博が近くにある後半生　清瀬喜美 ―― 30

第2期　2006年～2015年「開かれた博物館」への模索　井上攻 ―― 31
年度ごとの企画展、おもなできごと ―― 32-51
〈歴博コラム〉
市民協働最先端「都筑アートプロジェクト2009」のこと　菊池由紀子 ―― 52
学芸員実習の余響　寺西明子 ―― 52
考古学入門展示の試行錯誤　高橋健 ―― 53
博物館と学校との連携の取組から　慶徳正好 ―― 54
一担当者が振り返る2期の普及事業～両輪から融合・連携へ～　小林紀子 ―― 54

第3期　2016年～2025年 地域と文化のハブとなる博物館活動　刈田均 ―― 55
年度ごとの企画展、おもなできごと ―― 56-75
〈歴博コラム〉
地域と横浜市歴史博物館　橋口豊 ―― 76
展示解説ボランティア導入　久保暢子 ―― 77
歴史未来フェスのはじまり　花澤明優美 ―― 78

～つなぐ・つながる・つなげる～ボランティア・関連団体のあゆみ ―― 79-97
展示解説ボランティア／活動支援ボランティア／横浜縄文土器づくりの会／横浜古文書を読む会
横浜古代史料を読む会／横浜さいかちの会／横浜歴博もりあげ隊
都筑民家園／みなきたマルシェ
〈歴博コラム〉
歴史劇場の改修 ―― 98

資料編 ―― 99-119
30年のあゆみ／沿革／歴代館長／建物・施設概要／大塚・歳勝土遺跡公園／統計（年度別利用者数）
まちと歴史博物館の移り変わり　写真 吉川久雄

※文中の年代表記は西暦を基本としました。
※執筆者の肩書きは当時のものを基本としました。

本書の構成について

1995年から2025年の30年を3つの時代に区切り、その当時を知る3人の方にその時代の扉文を、また同時期に博物館に関わってくださった方々にそれぞれの思いをご寄稿いただきました。各年度の写真（上段：展覧会チラシの写真、下段：活動の写真）とあわせて、横浜市歴史博物館のあゆみを見つめ、未来へ向けて「つなぐ・つながる・つなげる」何かを感じ取ってもらえたらうれしく思います。